

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所るれいるーむ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	R8年 3月 1日		～	R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日		～	R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【子どもが楽しく安心して通える環境づくりと専門的な支援】 子どもの特性を深く理解し、一人ひとりに合わせた専門的な支援や心地よく過ごせる空間づくりを行っています。結果として、「子どもが休みの日も行きたがる」「日々楽しく通えている」といった嬉しいお声をいただいております、高い満足度	【保護者との強固な信頼関係と丁寧なコミュニケーション】 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、健康や発達の状況について共通理解を図っています。送迎時や面談を通じて共感的な支援を心がけており、保護者の方から感謝のお言葉をいただくなど、良好な関係性が築けています。	引き続き、子どもの興味関心を引き出し、心身の成長を促す活動プログラムを提供するとともに、子どもたちが笑顔で安全に過ごせる環境の維持・向上に努めます。
2		工夫していることや意識的に行っている取組等： 【安全管理と適切な体制整備】 活動スペースの確保や清潔さの維持、職員の適切な配置など、基本的な環境・体制整備を徹底しています。	現状に満足することなく、職員間の研修等を継続し、支援の質の向上や、よりバリアフリーに配慮した環境づくりなど、安全・安心な事業所運営を継続します。
3	個々の特性に応じた支援計画を作成し、丁寧な説明と的確な支援を実施。	利用者様が帰所ご毎日、振り回りの時間を作り、情報共有を行っている。	今後も職員間で毎日行っている、振り回りの時間を大切に計画の定期的な見直しや成長に合わせたより質の高い支援を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「児童発達支援ガイドラインを見たことがない」というご意見や、非常時対応マニュアル（事故防止、防犯、感染症等）の周知・訓練に関して「わからない」との回答が一部見受けられました。日々の支援に注力するあまり、重要な指針や緊急時の備えに関する保護者への説明や発信が不足していました。		ガイドラインや各種マニュアルの要点を分かりやすくまとめ、入所時だけでなく、定期的なお便りや面談、施設内掲示などを通じて改めて丁寧に説明・周知する機会を設けます。
2	父母会の活動支援やきょうだい向けのイベント、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）について、「いいえ」「わからない」という回答がありました。個別支援を優先しているため、ご家族全体を巻き込んだイベントや交流の場の企画・実施に手が回っていない現状があります。	地域の他の子どもと活動する機会について「わからない」との回答が複数ありました。日々のプログラム運営や感染症対策等の事情もあり、外部の児童との交流行事を十分に企画実施できていないことが要因です。	保護者の方の負担にならない範囲で、情報交換ができる茶話会などの交流の場や、きょうだいち一緒に参加できる小規模なイベントの開催を段階的に検討・企画していきます。
3			地域の保育所や幼稚園、認定こども園等との情報交換を密にし、事業所の枠を超えた合同イベントや、地域社会との交流機会を安全に配慮しながら持てるよう、関係機関との調整を図っていきます。